
病んだ闇、

ミルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

病んだ闇、

【Nコード】

N1499V

【作者名】

ミルト

【あらすじ】

元ネタとして、「メビウスリング掲示板」の「娯楽版」の「イナズマイレブンなりきり」の「重いよ、【闇堕ち】」というものがあります。本当はこっちが元ネタですがね。駄作ですが少しずつ読んでいってやってください。

イナズマイレブン／闇堕ち（前書き）

それは、何より冷たくて――

「ここは、イナズマイレブンの闇堕ち小説置き場です。
さて、こういうのが苦手な人はさっさとUターンを願いますよ？
では、よろしくおねがいします」

イナズマイレブン／闇堕ち

………あのさ

——俺を、強くしてくれるって本当か？

「本当だよ。……やっとそのつもりになってくれたんだね！ 守ちゃん！」

……ああ。

「それじゃあ、手を出して……。」

……これは？

「カッターナイフ。これで、僕を切り裂いてみてよ」

……いいのか？

「どうぞ。さあ、早く」

……じゃあ、やるぞ

「つつつ——」

……！？

「ははは。驚いた？

僕は人間じゃないからね——化け物なんだ」

……そうか

「それじゃあ、はい。
これを受け取ってよ」

……これが？

「うん、それが力の源だよ」

……ふむ

「これで、君も僕の仲間だ」

……

「よろしくね」

……ああ

太陽は墮ちつもなお輝く。(前書き)

ここからはちゃんとした話にたぶんなる！

太陽は堕ちつもなお輝く。

「……円堂守がない？」

「そう。どこを探してもね」

「そんなことはないはずだ。俺たちの時代に円堂カノンは間違いなく存在しているから死亡の可能性は考えられないわけだし……」

「でも、いないものはいないんだよ？」

「うーん。まあ、探してみるよ」

……消えた少年を見届けると、もう一人の少年はにやりとわらう。瞳はもともと赤かったが、さらに怪しく赤く輝いている。

「…未来人の癖に、こんなのでだまされるなんてどうかしてるよねえ、そう思わない？」

円堂君もさ」

「そうかもな」

適当に肯定をしてぷいっとどこかを向いてしまうもう一人の少年。そんな様子を見て、話しかけたほうの少年はうーん、と唸る。

「君はずいぶんと変わったね」

「そうかもな。お前も人のことをいえないだろうが」

「僕はこれが素だよ。なんとも言わせないよ」

少年は二人してけけけ、と笑った。

ずいぶんと楽しそうだ。

『どこににいるのかと思えば、こんな所に』

路地裏で話をしている少年たちに、もう一人——いや、あれは少年ではない。少女だ。少女が、二人の少年にくすくすと笑いながら近づいた。

「ツクシ」

「ツクシちゃん。」

二人同時にその名前を呼ぶ。

『や、二人とも』

少女は笑顔で答える。

『どう？ 作戦は順調かい？』

「いや、それがねえ……気づかれたよ、「やつら」に。」

『ほう？……もう気づいたのか』

「……気づかれようがなんだろうが、俺は俺のすべきことをするだけだ」

少年は冷酷な声でそうつぶやき——立ち上がると路地から光のあるほうへと歩いていく。

『始まりの場所にいくのかい？』

「すべてを告げるには、あそこが一番いい」

少年は歩き出した。

何よりもまぶしく輝く太陽は、堕ちながらも。堕ちながらも、なお輝き歩き続けた。

黒い雨。

.....

「珍しく雨だな」

「そう……ですね。」

「……えっと……神童、だっけ。何かわかったか？」

「いいえ……まだ、なにも」

「そうか」

ため息をつき、仕方ないかと髪を掻き揚げる。

「円堂……お前は一體、いまどこにいるんだ……」

雨はいまだに降り続く。

重い石のような雨。黒い雨が。

自分の心を締め付ける、昔自分がしてしまった過ちを責めるかのよう
うに、窓にたたきつけられる。

「俺ももう少し手がかりを探してみるよ」

「わかりました。俺も、もう少しがんばってみます」

少年たちは、同時に別の方向へ歩み始める。

青色の髪少年は、絶望を覚える。
幼馴染が、あちら側にいるということに。
茶色の髪少年は、希望を覚える。
何より強い力を得られる、ということに。

二人の少年は、別の時代と別の道を歩んでいた。

……ベージュの髪を持つ少女が、ただ一人瞳を紅く輝かせて微笑んでいた。これから先にある不幸を、暗示しているように。

「君たちは、何者からも逃れられない。これは、決まっていることなんだよね。悲しいけどさ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1499v/>

病んだ闇、

2011年10月9日11時47分発行